

# 衆院選決戦勝利へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年11月27日  
No.251

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 東北大学学生自治会執行部選挙 25日から信任投票がスタート!

東北大では11・20学生大会後、学生自治会執行部選挙が行われています(投票は25~28日)。11・2労働者集会とこの間の京大の闘いが安倍を追い詰めています。今次選挙はその闘いを現場で引き継ぎ、安倍にトドメをさし、大学の戦争協力を阻止する選挙です。鈴木たつお弁護士を押し立てての衆院選

とあわせての3週間の激闘です。

澤田君、青野君、川戸君が統一候補で立候補し、訴えがキャンパス全体に響きわたっています。選管の学生も、クラスやサークルで多くの投票(安倍打倒の決起!)を組織しています。25~26日の投票総数は、昨年を上回るペースで398票です!

クラス・サークルからの反応は例年以上に良いです。クラス全員・サークル全員の投票も多々あります。「澤田統一候補が執行部になって何をしてくれるの?」「学生運動で社会は変わるの?」——何人もの学生と討論になっています。『前進』2658号が150部持ち込まれています。「7・1」後の学生自治会選挙は、学生が「学生自治(会)とは何か」「大学・社会はどうあるべきか」を根本的な部分で考える選挙になっています。

授業前の投票時間では「授業なんで…」と忙しそうにしている学生が増えています。しかし、真剣に考えて投票します。新自由主義大学下で単位・就職に追われつつも、その現実怒っているからこそ学生は投票します。討論を通して学生の力に確信を持ち、自ら選管になる学生もいます。「学生は政治に無関心」「学生自治会に関わるな」なるデタラメで学生の力を低める安倍や大学当局への怒りの決起です。今の時代に団結を拡大する闘いとしてやっていることの重要性を、候補も選管も、応援に駆け付けた仲間もみな感じています。

だから安倍政権や大学当局は選挙そのものを破壊してきます。全教員に「学生自治会の選挙をさせるな」と通知を出し(ほとんどの教官が従いませんが)、選管の部屋があるサークル棟にはストーブを設置せず(「凍え死ねというのか!」)とサークル



生協前の常設投票所!

投票所

員の怒りは爆発している！「自治会とサークル協議会に頑張っ  
てほしい！」という思いが投票行動に結びついています)、故  
障で不通になってしまった電源も修理しようとしません。

東北大学学生自治会は、非公認化されていても、全学選挙  
によって学生の支持を形あるものにし、キャンパスのど真ん  
中に存在しています。今年選挙は、京大のように全学的討  
論、全学的行動を巻き起こして、その支持を学生自治会のも  
とへの団結へと高めていく闘いです。この東北大学学生自治  
会執行部選挙の勝利を引っさげて、鈴木たつおさんを押し立  
てる衆院選決戦に突入していきます！ (東北大・F)

## 【京大生と連帯し「広大公安事件」を追及！】

11月20日、前期に学生自治会が提出した学長宛て『公開質  
問状』への大学側の回答と、それへの質疑応答の場を開くこ  
とが出来ました。当日は弾圧と闘い抜いた1年生も参加。8・  
6ヒロシマ大行動実行委からも参加し、大成功を収めました。

今年前期、広大キャンパス内に広島県警の公安警察が入  
り込んで、学生自治会の活動を監視、1年生の親に電話で報  
告していた事件について、最初は「そのような事実はなかつた  
と推測している」「警察が親に電話をするなどありえないと考  
える」と、起きていた事実から目をそらす曖昧な対応でしたが、  
学生側の質問・追及の結果、事実関係について改めて警察に確  
認することを学活グループとして約束しました。

11月4日以来の京都大学事件が、情勢を完全に後押しした  
といえます。京大事件を受け、広島大も前記公安侵入事件へ  
の対応を迫られました。回答に先立ち、学活グループが警察  
に出向き、「既存の“申し合わせ”を守り、学内に無断で立ち  
入ることのないよう要請してきた」とのことでした。京大で見  
事に踏み破られていた“申し合わせ”の信ぴょう性がいかほ  
どかはさておき、弾圧に泣き寝入りしなかった1年生と、京  
大生の闘いの波及力で、広大が「大学には自治が存在する」と  
明言せざるを得ないところまで追い込んだことは決定的です。

### ◆物理科学科に弾圧責任を押し付け

さらに別の1年生が受けた弾圧事件(※チューターと学科長  
に2度呼びだされ、自治会活動をやめるよう迫られる。さら  
にチューターが親に電話し、8月5～6日は外出をさせない  
よう親に見張り役を命じる。後日なぜこのようなことをした  
のか、学科長に真意を問うたところ「本部の指示」「自治会がど  
ういう活動をしているか知らないけど頼まれたからやった」と  
回答してきた)については、「物理科学科の中で話し合ってた  
と言っていた」「君のことを思ったチューターの先生が言っ

たかもわからない」という許しがたい対応に終始！本当にふ  
ざけています。こうした回答は、前期に物理科学科長の研究  
室まで話を聞きに行った時と、まるっきり違うものです。そ  
の食い違いについて、なぜ学科長に質問しなかったのかと尋  
ねたところ、無言…。答えられないのは、話の口裏を合わせ  
るために、物理科学科を丸め込んだからにほかなりません。

しかし、それだけ周到に準備してきたにもかかわらず、一  
人の職員が「学活グループとして自治会に関する情報を日常的  
に集め、担当部局に提供している」「理学部の方にも私からお  
伝えした」という重大事実を暴露してしまいます。要するに、  
目の前の学活グループこそ1年生を弾圧した張本人なのです。  
しかし、「情報提供はしたが、その判断はしていない。部局に  
任せた」と責任押し付けに汲々とする始末。本当に情けない。

### ◆執行部の団結を守り抜き、 当局を話し合いの場に引きずり出した

今回さらに重要だったのは、昨年の自治会再建以来、学生  
向けに妨害文書を出し、学生と自治会の分断に躍起になって  
きた大学側が、「学生自治会は課外活動団体として認めていな  
いが、今回の申し入れについては『不当な介入があった』」と  
いうことで、事実確認しなければいけないと思い対応したと、  
自治会との話し合いに初めて応じたことです。当局の「公認/  
非公認」という学生同士の分断も闘いを通じて突破できます。

広大自治会は、この1年間で固めた団結を基礎に、2015年  
決戦に突き進みます。当面は12・14衆院選で東京8区(杉並区)  
から立候補する鈴木たつお弁護士とともに、安倍政治を終わ  
らせるために連帯して闘います！ (広島大・K)



## 【当面する行動方針】

### ●武田雄飛丸君「無期停学処分」撤回裁判・第8回弁論

12月17日(水) 13時10分～ 東京地裁705号法廷にて

### ●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第5回公判

12月9日(火) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

### ●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第6回公判

12月25日(木) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

